



士会だより



「第36回 兵庫県理学療法学術大会 開催」

巻頭言

p. 2

兵庫県学術大会

p. 3-5

各部だより

p. 6-7

数珠繋ぎ

p. 8

巻頭言



「 伝 統 」 と 「 革 新 」

一般社団法人兵庫県理学療法士会
理事 桑山 浩明

先の兵庫県理学療法学会大会では、大会テーマの中にある「挑戦と革新」を示すように但馬と神戸の離れた2会場をつなぐ、WEB開催・ハイブリット開催の一步先を行く方式で開催した。実際に、私自身は神戸会場で参加したが、但馬会場の教育講演をライブ配信で参加させてもらい、要所要所で但馬会場の雰囲気を感じつつ、神戸会場もにぎわっていたことを感じた。

さて、兵庫県理学療法士会(以下、県士会)というのは、再来年60周年を迎える。全国で一番早く組織化された県士会であり、私は、その20年ほどしか関わっていないが、阪神淡路大震災の経験から災害時の理学療法士のあり方をいち早く検討していたり、10年ほど前から託児所付きの研修会を開催したりしており、現在では、学校保健との連携やマルチモビリティに関する人材育成事業など、全国でもあまり行っていない「革新」的な事業にも力を入れているのがわが県士会の動きであり、それが「伝統」であるものと感じている。

私は県士会の理事として2期目を迎えており、担当している災害対策部のWEB会議では、会議終了後、部員の子供たちが画面上に現れる。みんな大きくなったね。とか、子育ての大変さの共有や経験者のアドバイスなどの会話が生まれている。その中に私も交らせてもらうこともある。WEB会議は、何かと関係性が希薄になることもあるが、このような場に参加すると、この会議の新たな意義を感じる。

加えて、もう一つ担当している理学療法啓発部では、今回の大会で同時開催にて高校生や理学療法学生などを対象とする一日体験があった。どのようなところで働いているかなどの説明がある中、医療介護業界のみならず、自費事業や福祉用具・治療器具の開発などに携わる理学療法士もいることに、高校生や保護者の方も驚いていた。今や、さらに保険会社やプロ野球選手、この度、厚生労働委員長に任命された国会議員をはじめ市長、各地の議員など、地域の中、社会の中での様々な場面で理学療法士が活躍する世の中となっている。

私たちは、先覚が積み上げた日進月歩の医療の世界に足を踏み入れ、リハビリテーションという単なる機能回復ではなく、新たな生活への伴走者であり、未来の生活を豊かにする役割を担っています。まさしく、「革新」的な取り組みをすることが当たり前の職業なのかもしれません。

これからを担う会員の皆様におかれましては、「革新」することが「伝統」であると感じつつ、様々な場面で挑戦することを忘れず、日々の業務や士会活動に取り組んでいただければと思います。

。

第36回 兵庫県理学療法学会 開催

2025年10月19日(日)、「機は熟した！地域の未来を支える理学療法の挑戦と革新」のテーマのもと、但馬(養父市県立但馬長寿の郷)と神戸(甲南女子大学)の2つの会場をオンラインで繋ぎ、開催されました。但馬会場では、高齢化が進む地域の特性を踏まえ、理学療法が介護予防や社会的処方といった地域医療の重要な課題に挑むため「地域での挑戦」をキーワードとし、神戸会場では、最新の治療技術やデジタル技術を活用した診療技術・教育方法を提案し、現場で活用できる知識やスキルを提供するため「技術と教育の革新」をキーワードとされました。

超高齢社会の我が国において、社会資源である私たち理学療法士の挑戦と革新について考える一日となりました。学会の様子を一部抜粋してご報告させていただきます。



【大会長基調講演】

「機は熟した！私たちはなぜこの地に集い、学び、そして何に挑むのか」

大会長の中谷 知生先生(宝塚リハビリテーション病院)より、ご講演いただきました。まずはなぜ北部に位置する養父市という地を選んだのか。これまでの開催場所は神戸と姫路のキャッチボールにほとんどなっているが、この広い兵庫県でそれでいいのか。もっと幅広く広い土地である必要があるのではないかと考えた。北部には謎めいたものがある！何かロマンがある！テンションが上がる、ただそれだけと。「社会的処方」という言葉を考えたとき、人と人との繋がりを作っていくことが大事であり、行政もすごい力を入れており、地位の高い先生も集まってきているこの養父という地域が、県全体で盛り上げていくためには最適ではないかと考えた。神戸との2か所同時開催、オープンチャットを活用することで聞くだけでない、聴講者も一緒に盛り上げて作っていく、まさに機を熟した実りのある学会大会の始まりを力強い言葉で告げました。文章では伝えたくても伝えることができない・・・大会長基調落語でした。

医療で社会をつなぐ「医療社会人」を目指す



宝塚医療大学
TUMH
TAKARAZUKA UNIVERSITY OF MEDICAL AND HEALTH CARE
0120-00-1239

保健医療学部
理学療法学科 柔道整復学科 鍼灸学科 口腔保健学科
和歌山保健医療学部
リハビリテーション学科 看護学科
観光学部
観光学科 2024年4月開設



解き放て、**医**の力

実践的なIPEで、強い医療人へ

兵庫医科大学は、医・薬・看護・リハビリテーションの4学部を擁する医療総合大学。医療現場を想定したIPE(多職種連携教育)で人々に支えられるパワーを、未来に託せる強い医療人を育成します。

EMPOWER THE PEOPLE 心に響く医を、私たちがいるかぎり

医学部 | 薬学部 | 看護学部 | リハビリテーション学部

H 兵庫医科大学

【特別講演】

「自然に健康になれる環境づくり」

特別講演では、千葉大学予防医学センターの近藤 克己先生より「自然に健康になれる環境づくり」というテーマにてご講演頂きました。「ゼロ次予防」(WHO)に向けた取り組みについて、フレイル該当者割合割合の市町村格差、独居高齢者の欠食の割合などのお話、住まいの近隣の環境といったハード面のお話から、ソフト面であるまちづくりなどの重要性について具体的な事例やデータを示して頂きました。また、実際に愛知県武豊町での武豊プロジェクトなどの実例を交えながら「サロン」などの集いの場、通いの場を設置することでの直接的な効果から波及的な効果までご紹介頂きましたので、参加者も大変想像しやすかったのではないかと思います。



【兵庫県理学療法士会主催研修会】

「Multi-morbidity患者への急性期から生活期への取り組み」

兵庫県理学療法士会主催研修会では、熊谷 陽造先生(公立神崎総合病院)を始め、急性期を代表して岩田健太郎先生(神戸市立医療センター中央市民病院)、回復期を代表して森沢 知之先生(神戸リハビリテーション病院)、生活期を代表して木澤 清行先生(リハビリ訪問看護ステーション薔)にご登壇頂きました。多様な疾患を含むMulti-Morbidity患者に十分に対応するため、現状の課題と取り組みが紹介されました。中でも、シームレスな人材育成や地域毎での人材育成の輪を作ることの重要性について、現在実際に行われている急性期、回復期間での人事交流や、「CURE-KOBE」といった神戸全体での教育プログラムや、シームレスな連携を図る為の協議会のお話を交えてご説明頂きました。また、生活期リハにおいても多疾患が併存している中、定点的な評価とフィードバックの大切さについても提示されました。これらの知見や取り組みは、現場の質を高める上で欠かせない視点であると思いました。

10学部7研究科、総合大学で豊かな人間性を育む
総合リハビリテーション学部

理学療法学科
・理学療法士国家試験受験資格

作業療法学科
・作業療法士国家試験受験資格

総合リハビリテーション学研究科
大学院 修士課程・博士後期課程

神戸学院大学
KOBЕ GAKUIN UNIVERSITY

〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518
有瀬キャンパス TEL (078) 974-1551 (代表)

救急救命からリハビリテーションまで
現場さながらの「チーム医療を学ぶ」

神戸医療福祉専門学校中央校
650-0015
神戸市中央区多聞通2丁目6番3号
介護福祉士科 臨床科
精神保健福祉士科 社会福祉士科

神戸医療福祉専門学校三田校
669-1313
三田市福島501-85
理学療法士科 作業療法士科 言語聴覚士科
救急救命士科 義肢装具士科4年制

姫路医療専門学校
670-0927
姫路市駅前町27番2
作業療法士科 言語聴覚士科
臨床工学技士科 救急救命士科

「地域を支える理学療法の挑戦 “まちづくり”や“通いの場”で

教育講演Ⅰでは、井手 一茂先生(千葉大学予防医学センター)にご講演頂きました。リハビリテーションの定義は変遷しており、障害者や社会的不利の状態にある方を対象とするとされていたが、現在は対象を絞らず全ての方が含まれ、環境と相互作用する健康状態にある個人の機能を最適化し、障害を軽減するように設計された一連の介入であるとされています。高齢者にやさしいまちづくり(Age Friendly city)を推進していくことは国際的にも言われています。専門職もまちづくりの一翼を担っており、地域と医療介護との関わりをなくし、元気な方、フレイル予防、要支援、要介護という枠組みも取り払い、すべての方がそのまちで過ごせる仕組みづくりが必要です。住宅環境が良好なほどQOLが良好、通いの場づくり事業に熱心な市町村ではフレイルが少ない、生活支援体制整備が充実していると閉じこもりが少ない等、大変興味深いデータもご教示頂きました。私たち理学療法士が地域のことを知ること、普段から行っている環境整備一つをとっても、地域への働きかけ、しいては人だけでなくまちを元気にすることに繋がっていくということを知ることができました。



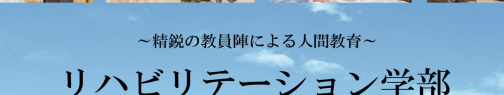
広報部 筒井 章悟(兵庫しあわせ訪問看護ステーション)
濱田 大介(東灘しあわせ訪問看護ステーション)



～精鋭の教員陣による人間教育～

リハビリテーション学部

理学療法学科




神戸国際大学

リハビリテーション学部／経済学部
 〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中9丁目1番6
 TEL: 078-845-3111(代表) FAX: 078-845-3200



リハビリ訪問看護ステーション 蓄
アスリートサポート部
ソーシャルスタジオ広報部
Steps
想いをカタチに
予防医療部
ウイメンズヘルス部
ICTサポート部

兵庫事務所 TEL 078-599-7990 FAX 078-330-3754
〒652-0033
神戸市兵庫区西上橋通 1-1-23 ヴィラ神戸Ⅱ 101
神戸西事務所
〒655-0013
神戸市垂水区福田 2-4-4 サン・リベラル 203

各部だより

スポーツ活動支援部

柔道班対面勉強会

2025年8月29日金曜日柔道班の対面勉強会を開催しました。松本病院 病院長の田邊誠先生を講師としてお迎えし、「スポーツ現場における肩関節傷害の診かた」をテーマにご講演いただきました。参加者は21名でした。講義ではスポーツ現場や臨床場面でも役立つ骨折や脱臼、軟部組織損傷の診かたや触診についてご指導いただきました。田邊先生の診療の場での患者の診かたについてお話を聴くことで、評価方法の引き出しを多く持ち様々な疾患・病態にも対応できる臨床力の必要性を再認識する良い機会となりました。今回の学びを今後のスポーツや臨床現場で活かしていきたいと思います。

上原 拓也(東浦平成病院)



【参加者の感想】

「スポーツ現場における肩関節障害の診かた」を受講して

柔道班の勉強会として、松本病院の田邊誠先生による「スポーツ現場における肩関節障害の診かた」の講義を受講しました。肩関節障害の中でも外傷性のものに焦点を当て、骨折、脱臼、腱板断裂等について、基本的な知識から実際の評価方法までご指導いただきました。視診、触診、整形外科的テストでは確実性に欠けるため、骨折や脱臼が疑われる場合には、救急病院での受診が必要であることが理解できました。今回学んだ評価を日々復習して、今後の現場活動に活かせるよう頑張りたいと思います。

中条 なるみ(こどもデイはれいろ)



女性だから、できるケアがある。
女子大学で、女性のための理学療法を学び、
リーダーシップがとれる理学療法士へ。

看護リハビリテーション学部
理学療法学科

K 甲南女子大学
〒658-0001 神戸市東灘区森北町 6-2-23

理学療法学科公式サイト  理学療法学科公式 Instagram

創立52年の歴史を持つ医療の総合教育校

診療放射線科	臨床工学科
視能訓練士科	理学療法士科
作業療法士科	言語聴覚士科
歯科衛生士科	臨床工学専攻科



Since 1973 医療法人社団 慈恵会
KCC 神戸総合医療専門学校

〒654-0142 神戸市須磨区友が丘7丁目1番21

お問い合わせはコチラ TEL 078-795-8000(代) HP <https://www.kobecc.ac.jp>



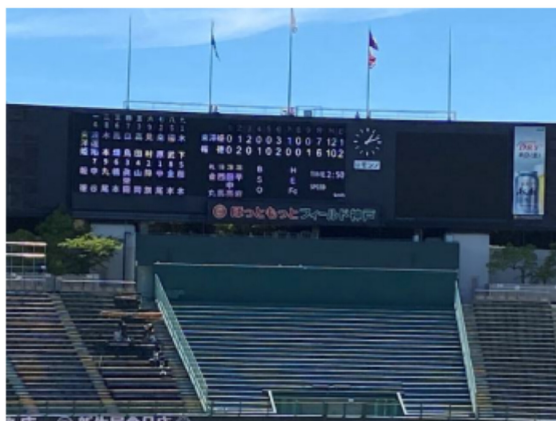
各部だより

スポーツ活動支援部

『第107回全国高等学校野球選手権兵庫大会メディカルサポート』

2025年6月29日より第107回全国高等学校野球選手権兵庫大会が開催され、決勝では東洋大姫路高校が報徳学園高校との熱戦を制し、14年ぶり13回目の夏の甲子園出場を決めました。その後、甲子園大会でも見事ベスト8まで勝ち進み、感動を与えてくれました。県士会では、県大会での準々決勝以降、7試合においてメディカルサポートを行い、予備日を含む9日間で多くの初参加者を含む27名が応募・参加して下さりました。サポート内容は、主に投手のアイシング、熱中症、脳震盪疑いへの対応、また球審の肉離れの応急処置など多岐に渡りましたが、無事に大きな怪我や重度の熱中症もなく終えることができました。毎年厳しさを増す気候や高校野球を取り巻く環境の変化にも対応しながら、今後も高校野球の全力プレーをサポートする仲間をお持ちしています。

藤井 祐樹(段医院)



【参加された方の感想】

この度、第107回全国高等学校野球選手権兵庫大会におけるメディカルサポートに参加させていただきました。スポーツ現場での活動は初めてでしたが、そこでしか味わえない独特の緊張感や熱気を肌で感じることができ、非常に貴重な経験となりました。二日間の活動を通して、熱中症、筋痙攣、筋挫傷、脳震盪などの疑いがある事例に対応する機会がありました。これらの対応を通じて、日常の臨床ではなかなか経験できない応急処置やアイシングの方法、テーピング技術などを学ぶことができました。今回の経験を糧に、今後さらに多様な症例に対応できるよう、知識と技術の向上に努めてまいります。

森野 明(神戸医療福祉専門学校三田校)

スポーツ活動支援部のサポートには日頃スポーツ選手に関わる事のない病院、介護施設勤務の理学療法士も多く参加していただいています。スポーツ活動を支援するサポートスタッフに興味のある方は、QRコードまたは兵庫県理学療法士会HPIにアップされる「現場活動のお知らせ」、「勉強会のお知らせ」に是非お申し込みください。皆さんとスポーツ活動のサポートができることを楽しみにしております。

【申し込み先】スポーツ活動支援部 中西拓也 e-mail:supokatsu2008@gmail.com





医療法人社団 秀英会
神戸朝日病院
金 明秀 氏

略歴

2014年3月
兵庫医療大学
リハビリテーション学部
理学療法士科 卒業
2014年4月～
医療法人社団 五誓会
あさひ病院 入職
2020年～
医療法人社団 秀英会
神戸朝日病院 入職

趣味

スポーツ観戦

モットー

捨てる神あれば拾う神あり



キャリア開始は急性期から生活期の一般病院への入職でした。他疾患併存した多種多様な高齢患者様を対象とした理学療法提供で、困難を極めることもしばしばありましたが、この“数珠つなぎ”前任者の佐々木先生を始め、良い先輩方・同期・後輩に恵まれ、幾多の経験を積ませて頂きました。そして、縁あって現職場へと転職し、現在に至ります。

現在は、地域包括ケア病棟で専従理学療法士として従事しております。当院のスローガンである「治し支える」医療の一員として、一人ひとりの患者様の人生に寄り添い、尊厳を大切にしながら、患者様が在宅復帰を目指す過程に深く関わり、身体機能の改善だけではなく生活動作の自立支援や家族への介助指導、退院後の環境調整等、チームとして幅広い支援を行えるように尽力しております。多職種チームの一員として、医師、看護師、薬剤師、MSWらと協力していく中で、患者様一人ひとりに最適なリハビリテーションプラン立案が求められ、責任を日々感じながら従事しております。まだまだ発展途上ではありますが、謙虚な気持ちを忘れずに日々研鑽を重ねていきたいと思っています。

次は、宝塚リハビリテーション病院でリハビリテーションに従事されている、蓮井 成仁先生にお繋ぎします。

表紙写真

第36回兵庫県理学療法学術大会が、2025年10月19日(日)に、「機は熟した！地域の未来を支える理学療法の挑戦と革新」のテーマのもと、但馬(養父市県立但馬長寿の郷)と神戸(甲南女子大学)の2会場同時開催にて開催されました。参加登録者は1200人を超え、大盛況となりました。

写真は会場の当日の様子になります。

県士会だより 第208号

発行

一般社団法人兵庫県理学療法士会

発行責任者／間 瀬 教 史

編集者／筒 井 章 悟

ホームページ

<http://hyogo-pt.or.jp/>



一般社団法人 兵庫県理学療法士会

兵庫県理学療法士会事務所 所在地

〒650-0012 兵庫県神戸市中央区北長狭通5丁目5-22 4階

TEL 078-367-7311